



《将来に向けた取組方針》

日本ハム(株)は、持続可能な食文化の実現に向けて、様々な取り組みを推進します。グループにおいて養豚・養鶏事業を行っていることから特に、家畜排せつ物の適正な管理と堆肥としての活用を進め、土壌の健康を保ちつつ農業生産性を向上させることに力を入れます。また、飼料生産の効率化や環境負荷の低減を図ることも重要な要素と位置付けます。土壌に大きな影響を与えるといわれている家畜排せつ物の適正管理を推進するとともに、広範な地域社会との連携を深め、持続可能な未来に貢献できるよう、総合的な取り組みを進めて参ります。

《取り組み事例》

鶏や豚の飼育において発生するふん尿は、主に二つの方法を用いて有効活用しています。

1) たい肥化

①豚における取り組み

豚ふんは発酵処理を進め、使用用途に合わせて堆肥を製造しています。豚の飼育を行う日本クリーンファーム(株)のグループ会社では野菜栽培事業も行っており、この堆肥を用いて野菜や小麦も栽培しています。小麦については自社農場の豚飼料の一部になっています。

②鶏における取り組み

鶏ふんの大部分は発酵処理し、使用用途に合わせた堆肥を製造・販売をしています。

2) 燃料化

①豚における取り組み

豚ふん尿の一部は嫌気発酵処理し、発生するメタンガスをボイラーの燃料として使用することで、家畜由来 GHG の排出量削減に取り組んでいます。

②鶏における取り組み

一部の鶏ふんは、化石燃料の補助燃料としてバイオマスボイラで燃やし、鶏舎の暖房や清掃時に使用する温水の熱源として活用しています。



《メッセージ》

土壌に影響を与えるといわれる家畜の排せつ物を適切に管理・活用することで、GHG 排出量の削減や土壌汚染の低減を進め、生物多様性の保全に貢献していきます。